

平成29年 第4回伊那地域協議会会議録

開催日	平成29年8月29日(火)								
開催時間	開 会	午後6時30分			閉 会	午後8時00分			
開催場所	伊那市役所 1階 多目的ホール								
委員の出欠  出席27名 欠席12名		委員氏名			委員氏名			委員氏名	
	1	板倉 倫顕	出	16	伊藤 和義	出	31	岩本 庄平	欠
	2	守屋 武夫	出	17	西澤 茂成	欠	32	高橋 陽子	欠
	3	伊藤 仁	出	18	福澤 千絵	欠	33	唐木 由美子	出
	4	久保村 友保	出	19	若林 一雄	出	34	鈴木 優子	欠
	5	白鳥 始	出	20	池上 直樹	欠	35	平澤 澄穂	欠
	6	細田 幸一	欠	21	宮下 平治	欠	36	武田 登	出
	7	中村 初治	出	22	畑 英城	出	37	平賀 裕子	欠
	8	宮下 信一	出	23	中村 繁子	出	38	小林 正	出
	9	中村 隆幸	出	24	小林 旬子	出	39	井口 清吾	出
	10	伊澤 芳人	出	25	向山 昌江	欠			
	11	有馬 久雄	出	26	田中 利幸	出			
	12	酒井 秋雄	出	27	小池 弥生	出			
	13	林 典男	出	28	中村 一重	出			
	14	米窪 砂男	欠	29	永井 治彦	出			
15	平澤 徹	出	30	清水 功	出				
署名委員	小林 正			井口 清吾					
条例第10条の規定により出席した者	なし								
市側の出席者	なし								
出席した事務局職員	地域創造課長 宮原 貴敏 地域振興係長 飯島 勝 地域振興係 橋爪 智美								
報告	(1) 伊那地域協議会からの提言等に対する対応状況等について								
議事	(1) 平成29年度伊那市協働のまちづくり交付金事業(2次)選考結果について (2) 小グループでの検討について								

	(3) その他
配布資料	資料 No. 1-1 伊那地域自治区提言書における提言内容と対応状況 資料 No. 1-2 伊那地域協議会からの意見と対応状況 資料 No. 2 H29伊那市協働のまちづくり交付金事業一覧 資料 No. 2-1~2-6 伊那市協働のまちづくり交付金事業選考シート

#### 1 開会

久保村副会長により、開会する。

(欠席の報告)

#### 2 あいさつ (会長より)

本日は報告事項が1件と会議事項が2件ある。後半に入ってきたので、グループ討議をまとめていただくことが必要かと思う。よろしくお願ひしたい。

#### 3 会議録署名人の指定について

(会長)

会議録署名人に38番 小林 正委員、39番 井口 清吾委員を指名する。

#### 4 報告事項

(1) 伊那地域協議会からの提言等に対する対応状況等について

(事務局)

伊那地域協議会からの提言等に対する対応状況等について説明。

<質疑・応答>

(会長)

対応状況について質問があればいただきたい。

<質疑・応答なし>

#### 5 会議事項

(1) 平成29年度伊那市協働のまちづくり交付金事業 (二次) 選考結果について

(事務局)

平成29年度伊那市協働のまちづくり交付金事業 (二次) 選考結果について説明。交付金に残額があるので使い途をこの後協議いただきたい。考え方としては3次募集をするという方法もあるが、この協議会の中で何か事業に取り組むことで活用することを提案した

い。例えば中心市街地の活性化をテーマに検討しているので、そこで具体的な活動があればそうした活動に活用していく、または伊那地域協議会全体で何か活動する中で活用していくことはどうか等検討いただきたい。

<質疑・応答>

(会長)

質問があればいただきたい。

(委員)

資料 No2-4 の決定額、一番下の交付決定額の額が違うのではないか。

(事務局)

合計金額が合わないのではないかという意見だが、左側の列の事業費の欄をご覧くださいと要望のあった金額は合計で 99 万 600 円となっているが、今回事業として認めたのは②の「歌と語るカフェ」で、このワークショップに掛かる費用は会場費 3 千円、広告宣伝費 2 万円、講師の謝礼が 5 万円となる。あとモデル事業の経費と②のイベントに関わる飲食費も併せて、決定額が合計で 27 万 3 千円となる。事業収入をご覧くださいと参加費①がモデル事業での収入となり、参加費②が②のイベントに掛かる収入であり、合計で 20 万円収入がある。よって事業経費から事業収入を引いた 7 万 3 千円が交付決定額となる。

(会長)

今回の決定額を交付すると残額が 47 万 5 千円ある。第二次募集まで行ったが選考の結果全額を交付することができなかった。この残額についてどのようにするか。三次募集をかけるのか。それとも中心市街地の活性化の事業に交付するのか等何かあったらご意見いただきたい。

(委員)

三班で特徴のある施設を提案したいということもあり、テーマについて先進的な施設の視察経費に充てていただければと考えている。

(委員)

4 班のテーマで、歩ける道づくりを提案しているので、地域づくりを考えるテーマで講師を招いてシンポジウムや勉強会等を開催したい。

(委員)

今提案されたばかりなので、みなさん内容を考えていないと思う。今ここで言われて決定ですと言われても、後で問題が起きてしまうと思うので、もう少し時間をいただきたい。

(事務局)

ここでは、基本的にはこの協議会の中で残額を活用することで良いかということをお願いを同意いただき、それぞれの事業の内容については、グループで検討いただき提案したものを全体で確認すれば良いのではないかと考えている。

(会長)

事業の内容がわからないのに認める訳にはいかないという意見が出た。事業を提案していただき考えていくということとしたい。3次募集については募集しなくてもよいということではどうか。

<異議なし>

(事務局)

この後グループ討議があるので、残額の活用についてグループで検討いただければと思う。

(委員)

事業年度の統一という課題があり、坂下区は来年の1月1日からの役員は任期を3か月延長することが決まっている。延長する3か月分の役員手当が発生するのは、どの地区においても同様だと思う。従って各区に残額を均等に交付するのがよいと思う。

(委員)

3か月延長するといっても翌年の3か月分を先に払っているだけなので、結果的には全く一緒で、3か月分余計に費用が掛かる訳ではないのではないかと。

(委員)

山寺も来年度から切り替える予定である。3か月延びると25%が町内や区で費用を持たなければいけないということか。25%の分はボランティアにするのか。市から交付される役員の報酬があるが、3か月分は支払われるのか、それとも区や町内で負担することになるのか。どこかから支出しなければならないので、区に配分してもらえればと思う。

(事務局)

事業年度の変更ということで、地域協議会から提案いただき平成32年4月をめどに変更をお願いしたいと区長会をお願いをしている。その中で手当の関係についても、問い合わせをいただいている。区長・町総代の皆さんを市の行政事務連絡員として委嘱しており、それに関わる交付金を交付している。延長期間の3か月分は追加で交付できるよう検討していきたい。各区でも手当があると思うが、区の手当については各区で検討いただ

ければと思う。

(委員)

30年に実施する区と31年に実施する区もある。変更の期日が揃っていないこともあるので、単に割り替えして区に配分するのではなく、例えば人口割りでいくらだとか基準を設けて支払わないと問題が起こるのではないかと。地域協議会で応援するのならば、きちんとした基準を設けて配分した方がよい。

(委員)

協働のまちづくり交付金からこういった交付金を出すのは疑問に感じる。今までの発言の中で、区の会計年度の変更を協議会で提案したことがひとつの理由にあげられているが、交付金の主旨にあうのか疑問に思う。区の会計年度の変更は市が主催となって行うということで、市の方でも手当について検討しているという説明があった。残額については区の年度変更に関わる手当に使うのではなくて、違う事業に使う方がいいのではないかと。

(会長)

まちづくり交付金の選考基準が1から7までであるが、それを見ると活性化だとか獨創性、広域性、発展性という基準で、意見のあったとおり手当を出すということとは違う気がする。選考基準の視点から考えると交付するのは疑問に感じるので、事業についての交付金やグループで活動するために使うということなら良いのではないかとと思うがいかがか。

<異議なし>

(2) 小グループでの検討について

(事務局)

今後のスケジュールだが、今回は10月を予定している。全体のスケジュールを考えると次回検討結果をまとめていただくように今日の検討を進めていただきたい。10月の次の開催を12月に予定しているが、12月には提言書の形で検討できるように進めていただきたい。今話題に出た各グループで経費が掛かるような取り組みがあれば、それも併せて検討いただきたい。

<グループによる検討>

<グループによる検討結果発表>

(グループ1) 「中心市街地の活性化について」

中心市街地の活性化について、8月上旬に班のメンバーで通り町を歩いてみた。中には、一生懸命取り組んでいる人もいるが、個々の努力だけで今後どうなっていくのか心配もあ

った。本日の話し合いでは、商店をサポートできないかという中で、協働のまちづくり交付金を活用して商店のマップなどを作ってはどうかという意見があった。中心市街地は伊那市の顔にあたる場所であり、活気に満ちた活動ができればと考えている。

(グループ2) 「地域のつながりについて」

話し合いの一番の目的は、地域の催し等に出ることをためらう人を、どうにか表に出てもらおうようにするということである。そのためには、空き家等の活用や子どもとの関わりなどを持たせることにより、小さなグループで集まれる場所を作ることが考えられる。また、地域のリーダーとなってこうした人を表に出すことを進める人づくりが必要である。

(グループ3) 「伊那地域の公共施設の在り方について」

道の駅の設置を検討している。最初は商業ベースの施設という考えであったが、高齢者が集える場や子どもの交流の場、地元の方がちょっとした買い物をできる場、公民館活動の場、社会福祉協議会の事業の場等、そこに暮らす方が十分活用することができ、また地域外からも利用者を呼び込めるという施設を考えたらどうかと考えている。9月下旬から10月上旬に視察を実施したいと考えている。

(グループ4) 「少子化、加速化への対策について」

少子化・過疎化については、これまでも様々な取組みが行われてきているが、なかなか実を結ばないというのが現状である。班の中からもいくつか提案が出ている。例えば、西地区における一校一園、国や県による集客力のある施設の設置、食べ歩きや写真のスポットを示したマップ作成などの意見がある。

## 6 その他

(事務局)

次回の日程については11月17日の火曜日、6時30分から予定をしている。また開催通知をお送りするが、そんな予定でお願いしたい。

## 7 閉会

(副会長)

長時間にわたり検討いただき、ありがとうございました。以上を持ちまして、第4回伊那地域協議会を閉会とする。

本会議に会議録を作成し、会長及び会議録署名人において下記のとおり署名する。

平成29年8月29日

平成29年度 第4回伊那地域協議会 会議録

会 長 .....

会議録署名人 .....

会議録署名人 .....